

# 「ふるさとの昔話より」

第1話 イチョウの木と仏様

露木 容子

第2話 浄蓮の滝の女郎蜘蛛

大川 悦子

第3話 池の平

師岡 りみ子

第4話 親捨ての村

斉藤 静雄

おしみゃーに、みんなで〈こわめし坂〉をしゃべるべえ。

## 《こわめし坂》

わしゃー きょうは こわめし坂の はなしょうしべーと 思ってるだあーけんど…。  
私は 今日は こわめし坂の 話をしようと 思いますが…。

みしまから はこねーと やあーんでく やあーだの みつやしんでにある  
三島から 箱根へと 歩いていく 途中の 三ツ谷新田にある

てゃーへんきゅうなあ さかのこんで ずうーとみゃーから こわめし坂って  
大変 急な 坂のことで 以前から こわめし坂と

せーってたあだ。  
言っていた。

なあんでそうせえたあか としよりに ちょっくら聞いたら  
何で その様に言うのか 年寄りに 少し聞いてみたら

おこわを くってから登らにゃーと かったるくて 登れにゃーだあとか  
赤飯を 食べてから登らないと 疲れてしまって 登れないとか

てゃあへん急なあ さかあーやあーくと びっちより汗きやあて せなきやあ けけて  
大変 急な 坂を 歩くと 沢山 汗をかいて 背中に 乗せて

ひちよってたー 米が ふけちまって おこわになっちまったあーとか  
背負っていた 米が 炊けてしまって 赤飯に成ってしまったとか

むかしのはなしゃーおもしれえーで あきにゃーよねえー。  
昔の 話は 面白くて 飽きませんね。

おしみゃ

三島かたりべの会



# 劇団夏組

原作：水上勉 脚本：小松幹生 演出：佐次和弘

## ブンナよ、木からおりてこい

初めまして。三島市民演劇祭に今年初めて参加させていただきました、劇団夏組です。県東部を中心に活動しているアマチュア劇団です。創立20年で、18回公演。1年に1回、夏に公演しようと旗揚げし、17回までは予定通りでしたが、コロナで2年間公演できず、ようやく昨年9月に「ブンナよ、木からおりてこい」で18回目の公演ができました。この作品で県の芸術祭の奨励賞を受賞することができました。

今回、三島市民演劇祭で、初めて夏組のお芝居を観ていただくみなさまが楽しんでくださると嬉しく思います。よろしくお願いいたします。

### 演出より

「ブンナー」とは長い付き合いになった。45年前青年座のブンナ誕生の瞬間に立ち会えたことが、昨日のこのように思い出される。それから数年後、30代で「シアター万華鏡」のブンナ上演に参加することとなり、さらに30年以上の時間が流れ、その頃のメンバーは60代となった。そんな役者たちが『ブンナをやろう』と言い出した。『いやいや無理でしょう』と内心想ったが『こいつら、本当にブンナが好きなんだなあ』と嬉しくなった。面白いことに稽古場では、若い頃と違った役の捉え方、セリフの解釈が次々と出てきて、発見の連続となった。（これが再演の面白さ）我々は改めて、本作品が「命」「生活」のドラマであることを認識し、その表現の大変さを思い知らされている。

古株メンバーにとっては、3度目のブンナとなるが、「夏組」としては初演である。原作者の作品に込めた思いに真摯に向き合った後、演出の様々な勝手な思いをてんこ盛りにして作った舞台となっている。少々盛り過ぎたかもしれない。

キャスト	
ブンナ	片山洋一
子ガエル1	佐次靖子
子ガエル2	成田なつめ
子ガエル3	渡邊尚子
子ガエル4	西澤光里
老ガエル	佐次和弘
子供の声1	谷川淳
子供の声2	西澤光里
和尚	鈴木均
赤とんぼ	成田みゆき
すずめ1	かさまみちよ
すずめ2	佐次靖子
みみずく	片山悦子
もす	河合孝彦
ねずみ	鈴木均
へび	鈴木道子
語り1	杠幸子
語り2	佐次和弘



スタッフ	
演出	佐次和弘
舞台監督	鈴木道子
照明	鈴木均
音響効果	鈴木優理
音響効果	山口昌信
音響効果	谷川淳(BRC)
音響効果	大野真里那
音響効果	渡邊強
音響効果	杉山和祥
音響効果	若林高至
音響効果	かさまみちよ
音響効果	片山悦子
音響効果	水橋和子
音響効果	片山あゆみ
音響効果	井村奈緒美
音響効果	片山優
音響効果	水橋義明
音響効果	山口みどり
音響効果	辻享子
音響効果	水品崇
音響効果	オレンジ村

次回公演 2023年9月 予定